

4 点検・評価及び進行管理を通じた教育委員会へのアドバイス

<三浦康之 委員長>

今年度は、点検評価に関わらせていただいて四年目になります。今回は、委員長という立場で参加させていただくことになりました。そのため、自分自身の所見を述べるというよりは、他の委員の皆様方のご意思を、評価委員会の議論に反映させることに注意をして進めて参りました。今回は、2点申し上げたいことがございます。

1点目としまして、アートスペースや、藤沢宿の関連事業など、立ち上げから間もない事業について質疑応答を行ううち、考えていた以上にしっかりとした構想のもとに事業が組み立てられているという印象を持つに至りました。今後も、子どもたちや地域の発展のために、委員会における議論をご参考に事業を進めていただけますと幸いです。

2点目としまして、確か、2年前にも同じようなことを申し上げていたのですが、事業に対する評価を行う際に、どうしても実施した実績のみに注意が向きがちなきらいがあるという点が若干気になりました。無論、多くの事業は、一度実施されますと、主導権は各学校現場ということになりますので、教育委員会の事務局サイドとしては見えにくい部分も多々あるものは承知しておりますし、数多くの現場の声を拾うのにも限界がありますので、そのような形になりがちなのは分かります。しかし、本来は、事業を実施し、実施した事業に基づいて各学校等で何かが行われたならば、行ったことに対して現場にどのような変容がもたらされたかを含めて評価をしてゆくのが理想であると思います。なかなか難しいこととは思いますが、今後とも、是非、その取組を実施したことによって現場にどのような変化がもたらされたのか、ということに着目して、事業に対する効果をお考えになるよう、心がけていただけますと良いと思います。

最後になりますが、全体としましては、健全な方向で教育振興基本計画が運用されているのは確かなようですので、今後とも藤沢市の発展のために、頑張っていただきたいと思います。

<栃本親 副委員長>

今回も点検・評価に参加させていただいています。昨年度も思いましたが、教育振興基本計画に無駄な事業は1つもないということと、それぞれの事業が昨年度より進んでいることが分かり、達成に向けて確実に実行されてきていると感じました。

ただ、私たち評価委員4人だけでなく、学校教職員や保護者、市民の方々などともコミュニケーションをとってご意見をいただくと良いのかとも思いました。

どの事業も子どもたちにとって大切な事業だと感じています。教育委員会の皆様、これからも「藤沢っ子」のために「藤沢っ子の笑顔」のために、より良い学校環境整備に務めていただきたいと思います。

点検・評価に関わることで、私自身も「藤沢っ子の笑顔」のために少しでも役に立ちたいと再認識いたしました。今回も点検・評価に参加し、私自身のためにもなりました。

ありがとうございました。

< 藤井佳世 委員 >

今年度から、点検・評価にかかわらせていただきました。子どもの生活や教育、地域づくり、市民の生活環境と学習への支援など、多様な事業が展開されており、地方教育行政の重要さをあらためて実感いたしました。

全体を通して感じたことは、点検評価対象のいずれの事業においても、家庭・学校・地域・行政の連携の在り方が重要だということです。例えば、「総合市民図書館市民運営事業」「子ども読書活動推進事業」「アートのスペースの整備・運営事業」「(仮)ふじさわ宿交流館の整備・運営事業」は、基本方針や施策の柱は異なるとしても、「多様な学びをつなげる生涯学習ネットワークを構築する」という大きな目標に包括された事業です。これらの事業は、本、アート、芸術、文化を通して子どもや市民の生活と学習の拡大を促進し、同時に、より深く学ぶことを目的としている点で重なるところがあります。事業推進の中で、地域性を配慮した取組を進めている点も共通しているように思いました。市民の生活と学習の豊かさに寄与するこれらの取組を地域の特性をとりいれながら推進する際の評価の視点が、貸出件数、実施件数、利用者数などの数による評価であることも共通しているように思います。数の目標はとても重要ですが、並行して、各施設の利用の深さや数だけではない指標があると市民等による独自の取組についても高く評価できるように思いました。

また、「子どもの体力向上対策事業」「八ヶ岳野外体験教室の充実事業」「中学校給食施設整備事業」「学校防犯対策強化事業」につきましても、基本方針や施策の柱は異なるとしても、食、自然、健康、身体、運動を通して子どもや市民の生活と学習の広がりと深まりを推進し、地域や家庭の協力が重要である点も共通しているように思いました。これらの事業は、学校教育を中心にしながらも、子どもが安心して暮らすことのできる環境や生活に寄与しており、その背景にある、きめ細かい打ち合わせや円滑な連携に支えられていると感じました。今後は、さらに各専門性の発揮や科学的観点からのアプローチなどにより、食、身体、運動を含めた子どもの暮らしと市民の生活環境が充実することを期待しています。

< 市村杏奈 委員 >

前年に引き続き、2回目の点検・評価に参加させていただきました。このような機会をいただけてとても有難く思っております。

2人の息子も中学1年と2年になり、より一層中学生の生活や課題が見えてくるようになりました。小学生ではまだ低かったスマートフォンの所持率が、中学生では一気に上がり、我が家でも2人の息子はスマートフォンを所持しています。購入時に約束事を決めており、定期的に息子たちのスマホのチェックをしています。ラインの内容も見ているのですが、このような機器が急速に普及したことにより、コミュニケーションの

取り方が様変わりしていると感じる事が多々あります。子どもたちのやり取りが学校内では見えてこない事も増えたことでしょうか、教職員の方々にとっても、とても難しい状況になっているのではないかと思います。スマートフォンを持たせているのは家庭なのに、トラブル対処は学校になってしまっているという現状が大変心苦しいと感じています。様々な事業で、子どもたちの相談・支援をしていただいています。家庭の方でも家庭教育、トラブル対処ができるよう、PTA として保護者を支える活動をしていきたいと改めて感じました。

今回抽出させていただいた事業は、藤沢市の子どもたちの「体験」や「経験」を意識したものになっています。知りたいことがあれば、検索ワードを打てばすぐに調べられる世の中ですが、やはり「体験」や「経験」に勝るものはないと思っています。家庭内で子どもをどこかへ連れて行って体験をさせようと思っても、今の子どもたちは塾や習い事、部活等で忙しくなかなか機会を作ることができません。そのような中で、学校の授業の中での体験や経験を重視した取組、歴史や文化・芸術に触れることができる施設、想像力や考える力を養う本の充実など、藤沢市の充実した事業内容によって子どもたちが体験し経験できるということは、保護者にとって、とても有難いことだと思います。

また、行政だけではなく、それが地域のひとたちによって支えられているという事も常に感じています。藤沢市民のこと、主に子どもたちのことを考えて行われている事業だと思いますので、これからも市民の意見やニーズを取り入れながら、柔軟に、よりよい形にしていただけたらと思います。ありがとうございました。